



教会だより ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木とされている。

今年のみ言葉「私たちすべてのために」

私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。(ローマ書8章32節)

日本バプテスト教会連合
八千代キリスト教会

牧師 小林政和

八千代市大和田新田 94-77

Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925

Eメール: gpnng725@gmail.com

郵便振替: 00190-4-554373

どなたでも ご自由にお入り下さい。お待ちしております。
日曜日・午前10時30分・礼拝
水曜日・午後1時30分・祈禱会

「ターニングポイント」

牧師 小林 政和

三ツ橋信昌牧師(印南バプテスト教会)から、「講解説教とは」の文をいただきました。三ツ橋先生は長年、ケズイック講演者のS・オルフォード師の通訳で奉仕されました。オルフォード師は日本の教会のために、「講解説教セミナー」を開催してくださり、今も続いています。オルフォード師の講解説教の定義に「講解説教とは聖書本文の当該節について、歴史的・文脈的・文法的・教理的重要性に十分注意を払いつつ、キリストにより全く造り変えられ、応答を呼び起こす明確な目的をもって、御霊の力に満たされ、神のみことばの本文を解説し、宣言することである。」とあります。この実例は復活されたイエスが、エマオ途上の二人の弟子たちに示しています。イエスは「モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた」(ルカ福音書24:27)と述べています。イエスは夕暮れまで彼らに説教され、招きに応じて夕食を共にされました。弟子たちはその人がパンを裂かれた時に、イエスだと分かりました。その瞬間にお姿が見えなくなりました。『私たちに聖書を説き明かして下さいの間、私たちの心は内に燃えたではないか。』(同32節)と語り、彼らは心の目が開かれ、見えるイエスが居なくても大丈夫になったのです。ターニング・ポイントです。

私のことですが、潮岬青年キャンプで講師の本田弘次師が「この中で献身して、牧師・伝道者になろうと思う人は示して下さい」と問われました。私は説教に感動して涙ながらに決心をし、講師の前に出て行きました。その後、聖契神学校では昼間働いて、夜間に単位を取れば卒業できるとの知らせを知り、東京へ行きたいと思いました。迷っていた時に、私の肩を押してくれる人が居ました。和歌山工業高等専門学校で働いていたK先生(当時、東京理科大学を卒業し、物理学を教えていた)が私に上京することを勧めてくれました。高専で私は初級公務員(高校卒)でしたが、公務員の身分のまま、東京大学の事務職員に移る道が開かれました。私は上京し、昼間働いて夜は神学校へ通いました。神学校を卒業し牧師をしています。50年経った今思い起こします。「K先生から東京へ行くように勧めてもらい、行く決心をした」それが私のターニング・ポイントでした。

3月6日(木)野崎宅家庭集会

2023年11月から始まった野崎宅の家庭集会も、今回で8回目になります。毎回心温まる会になり、感謝します。



駐車場の花 (3月15日撮影) (下橋)



左: 葉牡丹
下: パンジー

3月14日(金)～16(日)小林牧師・中紀地区教会の訪問記

3月15日(土)夕方に美浜グレイス教会を訪問し、藤藪師はじめ美浜グレイス教会員がチラシ寿司で歓迎して下さいました。タイ・チェンマイに宣教に行っている福間庸平宣教師の帰国報告の映像(サッカーミニストリーの様子)を、興味深く拝見することができました。奥様と二人のお子様と親しくお話しもできました。この福間ご一家が4月9日に当教会に来て下さいます。

3月16日(日)夕方には印南バプテスト教会を訪問しました。三ツ橋先生に出迎えていただき、印南教会では、先生がご高齢であることもあり、信徒4人のメッセージを語るグループを作り、説教の訓練を行っています。その日、信徒説教者の一人である姉妹の力強い説教を聞き感動しました。礼拝後は楽しい交わりをすることができました。(小林)



3月16(日)八千代教会の礼拝

この日は小林牧師が留守のため、小林義宣・美千穂夫妻によるいつも通りの礼拝が行われました。終了後のお茶会では、4月20日イースター祝会の歌の練習をしました。(下橋)



メンバーの訪問紹介 「八千代キリスト教会での生活」

籠生嘉清

野崎宅(龍ヶ崎市)の家庭集会は、2023年11月に第1回が始まりました。今年の3月で8回目になりました。11時に教会から小林先生の車で向かいます。下橋兄・境姉と一緒に。途中食事をして1時間半ほどです。普段教会では時間がなくて話せないような、教会生活や聖書のことなどたっぷり話せます。集会では讃美歌を歌い、小林先生のメッセージを聞き、みんなで話し合い、お祈りをします。少人数なので和やかな楽しい雰囲気心がなごみます。

毎週日曜日の教会での礼拝は、心のよりどころとなっています。教会に来るのが楽しみで、安堵感があります。心が満たされ、自分が救われているのだとの感じを受けます。自宅では、YouTubeなどで、聖書の勉強をして、少しでも小林先生のメッセージの内容が理解できるようにと勉強しています。礼拝後のお茶会では、皆さんの信仰生活の話や、クリスマス祝会やイースター祝会のときに発表する歌の練習などして、歌好きの私としては、これまた楽しいひと時です。

最近はこのような、八千代キリスト教会との関りが持てて、充実した日々になっています。(聞き書き下橋)



教会及び連合のスケジュール(予定)

- 01月12日(日) 地区連合同礼拝&成人式(練馬バプテスト教会)
- 01月26日(日) 「ミスター・ミセスを偲ぶ会」(練馬バプテスト教会)
- 02月10日(月) 東京地区連合委員会
- 02月24日(月)~26日(水) 連合教職セミナー(天成園小田原別館)
- 03月06日(木) 龍ヶ崎(野崎宅)家庭集会
- 03月10日(月) 東京地区牧師会
- 03月30日(日) ミルトス50号発刊・発送
- 04月06日(日) 4月運営委員会
- 04月09日(水) タイ・チェンマイに派遣された福間庸平宣教師の帰国報告
- 04月13日(日) 八千代キリスト教会総会
- 04月14日(月) 地区連合新旧合同委員会
- 04月20日(日) イースター(復活祭)礼拝&祝会
- 04月22日(火) 八木明子姉のバプテスマ(洗礼)式
- 04月27日(日) 聖餐式
- 04月29日(火) 午前:東京地区連合総会、午後:スプリングセミナー

祈って下さい

- 1) 「バプテスト教会連合54教会の祈禱課題」が、み心にそって実現しますように
- 2) 横田めぐみさんはじめ拉致被害者の方々が早く家族のもとに帰れるように
- 3) ロシア軍に侵攻されているウクライナに、平和が回復するように
- 4) イスラエルとパレスチナのハマスとの間に、停戦合意が守られますように
- 5) 上福岡教会の渋谷昌史師は、抗がん剤治療中です。健康が回復できますように
- 6) 中溝兄の母「恵津子姉」の腰痛の癒しのために
- 7) 境幸子姉のお姉さん、「八木明子」姉が4月22日(火)に洗礼を受けられます
- 8) リーバックリ兄が貧血症。早く体力が回復できますように

3 分間講座 「アブラハムの子 イサクの結婚」

140歳と高齢となった信仰の父アブラハムと妻サラの心残りは、最愛の息子イサクの結婚問題でした。イサクの妻となる女性は、血統を守るため故郷のハランに住む親族の中から選び、また住んでいるカナン土地を受け継いで子孫を残してゆくためにも、カナンに住まわせることは譲れない絶対条件でした。

アブラハムは、長年忠実な下僕として仕えてくれるエリエゼルに、望みにかなう女性を探すように命じ、花嫁に贈る伝統的な贈り物を持たせナホルへ向かわせます。遣わされた下僕がナホルに着いて井戸のそばでラクダを休ませ、神の助けを祈りながら夕方に水を汲みにやってくる娘たちを待ちました。やがて姿を見せた一人の女性に、「水がめの水を少し飲ませてほしい」と声をかけると、リベカというその女性は喜んでラクダにも水を分けてくれました。彼女こそ神が選んだ女性だと確信した使者は、温かい気遣いへのお礼にと金の飾り輪と腕輪を渡すと、リベカはそれを持って急いで家に帰り家族に知らせました。リベカの家族は長旅の使者を自宅に招き食事でもてなします。そのとき詳しく井戸での出来事の事情を聞いた一家は、すべては神が決められたことと感謝しながらイサクとの結婚を受け入れ、娘をイサクのもとに送り出す気持ちを固めたのです。また同時に使者は、リベカがアブラハムと血の繋がっている女性であることを知ります。イサクはやってきた美しいリベカにあい、妻として彼女を迎えました。こうしてイサクは、母サラの死後3年目に慰めを得たのです(創世記24:67)。

仲睦まじい二人の結婚から20年が過ぎたころ、待望のエサウとヤコブの双子が生まれます。しかし息子たちを平等に愛することができずに、長子権をめぐる内紛もありましたが、ヤコブはやがてイスラエル12部族の祖となります。(池田)



「リベカとエリエゼル」 ムリーリョ・バルトロメ・エステバン作
1650~1655 年

編集後記: 3月から4月にかけて、各地から桜の便りが聞かれる。種類は数百あるというが、代表格は「染井吉野」であろう。幕末頃染井村(現在の東京都豊島区巣鴨付近)で「エドヒガン」と「ヤマザクラ」を交配して育成されたと言われている。ほかのサクラより、葉の前に花が咲き、また散り際が見事なところから日本人好みとされている。西行の歌などでも有名である。また紋様として、着物・陶磁器・郵便切手・硬貨などに描かれている。青空の下、満開の桜は、新年度に相応しい希望の春を象徴している。(下橋)